

## スキー・スポーツ

スキーはオーストリアで第一に挙げられる国民的スポーツです。しかし、その歴史は以外にも浅い。スキーはアルプスの地域ですら19世紀の終わりになってやっと広まったほどです。スキーは元来スカンジナビア発祥のスポーツです。ドイツ語の「スキー(Schi;シー)」という言葉はノルウェー語の「ski:木板」に由来しています。ノルウェーから来たスキーヤーはこの板を「ノルウェーの雪靴」と呼びました。スイスや南ドイツでは「スキー」に対して関心が深まってゆき、1890/91年の冬、帝国軍の軍人が初めてスキー使用を試みました。



子供スキー教室 (写真提供:オーストリア政府観光局)  
1897/98年にはスキーの先駆者であるマティアス・ツダルスキーにより「リリエンフェルト・スキー術」が完成されました。ストックを1本しか用いないこのスキー術は山岳地での滑降に適しており、アルペンスキーの発祥となります。この業績により1990年にはツダルスキーの記念切手が発行されました。

スキー使用における新しい可能性が開けたため、スキー・スポーツは軍隊訓練の一部に組み込まれることとなります。これから紹介するテオドル・フォン・レルヒ少佐は前述のマティアス・ツダルスキーと親交がありました。レルヒ少佐は交換将校として来日し、1910/11年の冬、雪深い新潟の高田駐屯地(今日の上越市)に滞在しました。少佐はスキー術を軍のみのものとせず、民間にも伝授したので、僅か一カ月後には「高田スキー倶楽部」が発足しました。真の「スキー熱」の到来でした。レルヒ少佐は交換将校として日本に赴任しましたが、スキーの指導者としての真の価値が評価され、新潟県上越市に記念像が建てられた。さらに、同市にはレルヒ少佐の業績を称えた「日本スキー発祥記念館」があり、また、毎年2月にはレルヒ祭が開催されています。



マティアス・ツダルスキー記念切手 レルヒ少佐 - 日本スキー発祥記念館 / 新潟県上越市  
写真提供:レルヒ博物館(旧師団長官)



当時のスキー 撮影:エルンスト・ラーシャン(協力:上越市博物館)

スキーの教本

スキー・スポーツは日本の積雪地帯に突如として新しい生活をもたらしました。スキーは実に便利なもの、文明の成果として賞賛されました。1946年から1958年にかけて170もの大会で勝利し、活躍を遂げたオーストリア人スキーヤーのトニー・ザイラーは、当時1200万ものスキーヤーがいた日本で一躍ヒーローとなりました。1959年に現役を引退した後、ザイラーはプロスキーヤー育成に尽力を尽くしました。日本の映画界でも活躍し、1960年代に銀嶺の王者「Der König der silbernen Berge」、さらに若大将シリーズ「アルプスの若大将」にも出演しました。NHKでもトニー・ザイラーを取り上げ、オーストリア国営放送ORFとの共同制作も行われました。



トニー・ザイラーの誕生日を記念して発行された、彼の幼少期から70歳までの生涯をテーマにした記念切手。